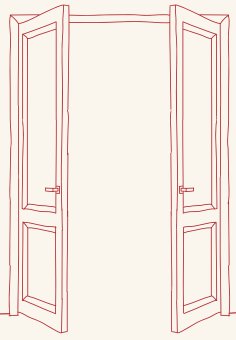


私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.34



究極の旅“クルーズ”の魅力を堪能する



全長183.4mの「ばしふいっくびいなす」。船内にはプールや展望浴場、スポーツジム、映画館も備えている

元会社員

岩田 博俊さん (81歳)

1998年定年退職

【いわた・ひろとし】1937年、兵庫県西宮市（甲子園）生まれ。小学校入学前に第二次世界大戦が勃発したため、祖父の在住する島根県安来市に疎開して高校卒業まで12年余を暮らした。大学で薬剤師の資格取得後、大手製薬会社に入社。以後37年間、薬の研究開発から営業まで幅広い業務を担当した。

—岩田さんは現役時代、どのような仕事をされていたのですか。

大学で取得した「薬剤師」の資格を生かし、大手製薬会社に入社しました。薬の研究開発を担当した後、会社の発展に伴い薬に関するあらゆる情報の収集・評価など様々な業務に従事しました。30歳から14年間は名古屋に赴任し、学術・営業などの業務も担当しました。

1998年に37年間勤務した会社を定年（60歳）退職して、年金生活に入りました。「毎日が日曜日で、好きな時間に好きなことができる日々を如何に有意義に過ごすか」が課題となったため、日頃は趣味を生かした生活に取り組んでいます。

—具体的には、どのようなことをされているのですか。

まずは丈夫で健康な体を維持するために、運動としてテニス（月8回程度）、スイミング（ほぼ毎日）、ウォーキング（毎日1時間程度）を行うほか、夕食時には旨いイタリアワインを賞味することを日課としています。

趣味も多いですが、中でもクッキングは日課にするほどで、近所のスーパーでの食材調達から調理、後片付けまですべて自分でやっています。イタリア料理が得意で、生地から作るパスタやピッツァ、焼き菓子のビスコッティなどは頻繁に作るレシピです。

—イタリア料理を始めたきっかけは？
旅行でイタリアを訪れた際、マンマ（イタ

リア語で「お母さん」の意）の作る料理を味わって、自分でも作れると思ったことがきっかけです。数年前にはカード会社が企画する料理教室のイタリアンを担当したこともありましたが、現在は妻と2人暮らしとなり、食べてくれる人が少ないのが残念です。

また、認知症予防や手先の運動になるという理由で始めたクロスアップ・マジックもレパトリーが多く、集会時に披露をして参加者をちよつと驚かせています。

—いろいろなことに興味をもって、チャレンジされているんですね。その他、どんなことをされていますか。

首都圏で開催される展覧会情報を開催前に収集し、『写真付きの見どころ』としてまとめ、出身企業のOB・OG会のホームページに投稿しています。

長年お世話になった会社の同僚たちへの恩返しとして始めたものですが、多い時には月に15～16件にも及び、これまでに200件強の投稿をしました。作成する際には、簡潔・明瞭に展覧会のポイントを紹介することにこだわっています。

—そのような日々の生活に加え、クルーズも楽しまれているそうですね。これまでに何回くらい乗船されたのですか。

クルーズは現役時代から利用しており、これまでの20余年間で100回近く乗船しています。日本クルーズ客船株式会社が管理運営する「ばしふいっくびいなす」だけでも、

ばしふいっくびいなす
就航20周年記念時の
ディナー



船内で開催された
料理長による料理教室時の一皿

乗船中に奥様の誕生日を
迎え、スタッフから花束
やプレゼントが贈られた



年末・年始のクルーズは、平常とは
異なる華やかな雰囲気の中、「年越
しカウントダウン」「初釜」「福笑い」
「羽根つき」「投扇興」など多彩なイ
ベントが催される



元旦恒例の「お節重」



「秋の日本一周クルーズ」の行程表

同社の創業20年となる昨年「100泊」を
達成しました。その他「飛鳥Ⅱ」や「につば
ん丸」「MSCスプレンドイダ」「クイーン・
エリザベス」などにも乗船しています。

——クルーズの魅力は何ですか。

一番の魅力は、飛行機や列車の旅と違って、
大きな荷物を船内まで宅配便で送ることがで
きるため、重い荷物を持った移動がなくなラク
なことです。ベッドで寝ている間に目的地に
移動できるので、体力を消耗することなく、
観光を存分に楽しむことができます。

食事については、1日3回の食事に加え
ティータム、夜食の分までも旅費に含まれ

るのでお得感がありますし（アルコール飲料
を除く）、毎夜開催される豪華なショーも
非常に見応えがあつて、鑑賞するのが楽し
みです。

毎日発行される「船内新聞」には、著名
人による講演や趣向を凝らした講座、落語
会などその日の船内行事がぎっしり記載さ
れていて、好みに合わせて自由に参加でき
ます。船内随所で行われているプロの音楽
家たちによる生演奏も、魅力の一つです。

——これまでの中で一番良かった旅は？

何れも良い印象でしたが、強いて挙げる
なら、「オーストラリア・ケアンズ・グレー
トバリアリーフの島巡り」です。船長以下
全クルーズスタッフが非常にフレンドリーで、
たいへん印象深いクルーズとなりました。

最近は乗船する時にノートパソコンとデ
ジタルカメラを持参して、船内や寄港地の
写真を撮影しその日の内に文章とともに加
工整理をしています。自作の冊子『さあ、
クルーズに出かけよう』は、これまでに10集
発行し、現在第11集の編集作業中です。

——それでは最後に、現役世代の方への
メッセージをお願いします。

日本では休暇をまとめて取ることは難しい
ですが、しっかりと働いてお金を貯めて、欧米
人を見習い究極の旅とされるクルーズをぜひ
体験してみてください。好きな時間に好きな
ことができるのは、最高の贅沢ですよ。

——お話をいただき、ありがとうございました。